

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長  
( 公 印 省 略 )

### 病害虫発生予察注意報について

令和 5 年度病害虫発生予察注意報第 8 号を発表したので送付します。

## 令和 5 年度病害虫発生予察注意報第 8 号

- 1 作物名 さとうきび (夏植え)
- 2 害虫名 カンシャワタアブラムシ
- 3 発生地域 八重山群島
- 4 注意報発令の根拠  
石垣島における 3 月中旬の新植夏植えほ場調査の結果、寄生株率は 22.4% (前年:0.0%、平年:3.3%)、発生ほ場率は 100% (前年:0.0%、平年:35.0%) となり、平年と比べ多発生となった。
- 5 発生生態および被害
  - (1) 年十数世代を繰り返す。発生は 4~5 月に最も多く、また 10~11 月にも発生のピークがある。
  - (2) 本種は無翅虫が綿状の白いワックスを背面から分泌し (図 1、2)、さとうきび葉裏に密なコロニーを形成する (図 3)。
  - (3) 成・幼虫 (図 4) が葉裏一面に群棲して吸汁被害を与える。大発生すると排出された甘露によってすす病を併発するため葉が黒変し (図 5)、さとうきびの発育が遅延する。
  - (4) 秋に多くの有翅虫 (図 6) が新植夏植えほ場に定着し、翌春の発生の原因となる。
- 6 防除上注意すべき事項
  - (1) 春の発生を抑えるため、新植夏植えの発生ほ場での薬剤防除を徹底する。
  - (2) 薬剤は葉裏にかかるよう丁寧に散布する。
  - (3) 多発生時は有翅虫による移動分散が絶えず起こるため、一斉防除を行うことが望ましい。
  - (4) 収穫予定のさとうきびほ場や近隣作物へ薬剤がドリフト (飛散) しないよう注意する。
  - (5) 天敵であるマエウスジロマダラメイガの密度が高い場合は自然に発生が収まるため、薬剤散布を控えて生物防除を行う (図 7)。



図1 成虫（無翅虫）



図2 綿状のワックスを分泌



図3 葉裏に寄生してコロニーを形成



図4 幼虫



図5 葉に発生したすす病



図6 成虫（有翅虫）と幼虫



図7 マエウスジロマダラメイガの幼虫（天敵）